

# どうとくのち

第6号

2021年秋号



【特集】

## ICTの道徳科授業への活用提案

東京書籍

この機関誌は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っています。

東京書籍

本社 〒114-8524 東京都北区堀船 2-17-1 Tel : 03-5390-7362(道徳編集部) Fax : 03-5390-6014  
支社・出張所 札幌 011-562-5721 仙台 022-297-2666 東京 03-5390-7467 金沢 076-222-7581 名古屋 052-939-2722  
大阪 06-6397-1350 広島 082-568-2577 福岡 092-771-1536 鹿児島 099-213-1770 那覇 098-834-8084  
ホームページ <https://www.tokyo-shoseki.co.jp/> 教育資料データベース 東書Eネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/>

令和3年10月発行 Copyright©2021 by Tokyo Shoseki Co., Ltd., Tokyo All rights reserved. Printed in Japan

A4797

# CONTENTS

【どうとくのわ】2021年秋号

## 3 巻頭言 つながりを大切に

日本体育大学助教 白井健三

## 4 特集

### ICTの道徳科授業への活用提案

金城学院大学教授 長谷川元洋

## 8 実践1 小学校 多様な考えに触れる きつかけづくりとしてのICT活用

愛媛県西条市立神戸小学校情報教育主任教諭 竹本啓貴

## 10 実践2 小学校 道徳教育の充実のためのICT活用

岡山県倉敷市立連島北小学校校長 山口雅弘

## 12 実践1 中学校 インタビュー映像を利用した授業実践

神奈川県横浜市立永田中学校教諭 東克也

## 14 実践2 中学校 生徒の思考を高める手段としてのICT活用

長崎県佐世保市立清水中学校校長 緒方茂



写真：松尾／アフロススポーツ

# つながりを大切に

小学生、中学生の頃は人見知りで、誰かと話すときは両親に頼っていました。自分の考えを表現することが苦手で、授業中に手を挙げて発言することはほとんどありませんでした。放課後は体操の練習で忙しく、友達と遊ぶこともあまりありませんでしたが、体操の練習には楽しく取り組んでいました。

性格的には、新しいものに興味が移っていくというよりは、気に入ったものをずっと繰り返すタイプです。例えば映画でいうと、「千と千尋の神隠し」は大好きで、何度も見ています。好きになったことをずっと飽きずに続けられる性格なのだと思います。

学校の授業では、音楽や美術など個性が発揮できる教科が好きでした。道徳の授業は覚えています。道徳の大切さに気づいたのは最近です。もつと学んでおけばよかったと思っています。

スポーツは競技力以前に人間力が大事です。結果を残しているかたの多くは、謙虚で他人のことを考えら

れる人です。私は体操から道徳を学んだという感覚もっています。

体操は人とぶつかる競技ではなく、お互いを認め合う競技です。人によって得意種目や技が違うので、周囲の人から学ぶことが多くあります。対人競技は相手のスキを分析して弱みを握って試合に挑むことが多いと思います。それに対して体操は自分しかコントロールできません。そのため相手の弱みを分析しても意味がないのです。そんな時間があれば、人のいいところを見て自分も成長したほうがよほどいい結果が得られます。人のいいところを見つけることは体操から学びました。

先生にしても仲間にしても、人とつながることが大事だと思います。人とつながっているからこそ、いろいろな失敗をして、いろいろなことを学べます。大人からだめだと教わっても、自分で失敗しないと分からないことはたくさんあります。だから、子供たちにはどんどん失敗してほしいです。感情が動くままに行動できるのは

小学生、中学生の特権です。その時期その仲間をすごく大事にしてほしいです。

私は先日、体操競技を引退しました。引退を決定するのに時間はかかりませんでした。現役の頃から、周りから無理と言われても難しい技に挑戦するなど、自分がやりたいことをやってきました。ですから、引退のときも自分で決めました。そして引退試合を迎えました。

ふだんの試合はあまり緊張しませんでした。引退試合は緊張しました。次がないという状況に緊張したのだと思います。結果として、自分の中では何の後悔も残らない試合をすることができました。引退試合に向けてずっと練習してきたので、緊張していても体が覚えていたのでしょうか。

引退した第一の理由は、自分の選手としてのモチベーションより、自分の経験や感情を後進に伝えたいという思いが強くなったからです。人に伝える仕事は自分には合っていると思います。これは、人とのつながりを大切にしてきた結果です。

私は、十七歳から六年間、日本代表になるという貴重な経験をさせてもらいました。その経験や情報を学生たちに伝えていこうと思います。その結果、白井健三に出会えてよかったと思うくれる人が一人でも出てくれたら嬉しいです。これからやりたいことがたくさんあって、今はとても充実しています。いい先生になれるように、これから毎日勉強していきます。



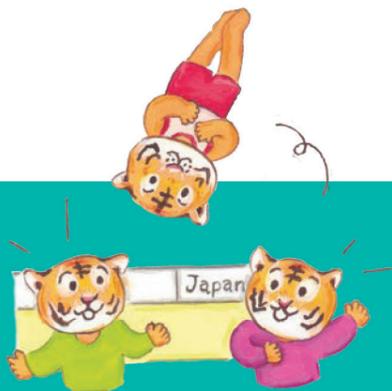
写真：日刊スポーツ／アフロ

## プロフィール

しらい けんぞう

# 白井健三

1996年神奈川県生まれ。日本体育大学助教。元体操競技選手。2016年リオデジャネイロオリンピック団体総合金メダル、跳馬銅メダル。



編集：東京書籍 編集局 道徳編集部  
編集協力：株式会社エディット  
デザイン：クオルデザイン(坂本真一郎)  
イラスト：サカモトアキコ



# - 特集 - ICTの道徳科授業への 活用提案

金城学院大学教授  
長谷川元洋

## 1 理想的な道徳科授業は？

先生がたと研究授業について相談する際に、私は必ず、「先生は、この授業を通じて、児童・生徒にどのようなようになってほしいと思っていますか？」と聞きます。そうすると、「○○になってほしい」「○○を感じ取ってほしい」「○○を考えられるようになってほしい。」などと、その先生の思いが語られます。その思いを少しでも実現できるように、授業の工夫を重ねることは、授業作りの楽しさでもあります。そして、その思いの実現のために、ICTは役立ちます。

## 2 できなかったことを ICTで実現！

「これまでの授業のやり方で、良い授業をしてきたという自負がある。」「鉛筆で書きながら自分に向き合い、考えることはとても大切だ。」など、従来から行ってきた授業の実績や良さを耳にすることがあります。豊かな経験と高度なスキルに裏付けられた授業は、たいへんすばらしいと思います。また、経験年数の少ない先生は、経験豊かな先生から学び、授業力を高めていく必要があると思います。しかし、従来の授業方法だけでは限界があります。例えば、「全員の児童・生徒の意見を取り上げたいが、45分または50分の授業時間ではできない。」ということがあります。これは、ICTを活用すること

ためには、さまざまな情報を活用する必要があるためです。そして、ICTを活用することで、効果的に深く思考することができます。

(参考) 情報活用能力を構成する資質・能力

### (知識・技能)

情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法・制度やマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報の科学的な理解に裏打ちされた形で理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能を身に付けていること。

### (思考力・判断力・表現力等)

様々な事象を情報とその結びつきの視点から捉え、複数の情報を結びつけて新たな意味を見出す力や、問題の発見・解決等に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けていること。

### (学びに向かう力・人間性等)

情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度等を身に付けていること。

【中央教育審議会答申別紙3-1】

（小学校学習指導要領解説 総則編）P.51

## 3 「主体的・対話的で 深い学び」の実現を！

とで可能になります。  
また、前時の児童・生徒の発言を紙に印刷して配付する代わりに、ICTを使って意見を共有することで、授業準備の時間を削減でき、授業構想にもっと時間を割くことができるようになります。さらに、クラス、学年の枠を越えて、意見を交流させることも可能になります。

また、学習指導要領が目指している教育を行っていくという視点でもICTは有効です。「小学校学習指導要領解説 総則編」P.25に、「豊かな心や創造性の涵養は、第1章総則第3の1に示すとおり、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して実現が図られるものであり、そうした学習の過程の在り方については、本解説第3章第3節の1において解説している。」と書かれているように、道徳科においても、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」が求められています。

しかし、「主体的・対話的についてはイメージができるが、深い学びについてはイメージしづらい。」という声を先生がたからよく聞きます。

それに対して、私は、第3章第3節の1（P.76）に示されている「各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けて

より深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。」に着目して、授業を構想することを推奨しています。そして、「知識を相互に関連付け」「情報を精査」「問題を見いだして解決策を考え」「思いや考えを基に創造」という学習活動に、ICTは有効に機能することも説明しています。

## 4 学習の基盤となる 資質・能力の育成

さらに、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を、道徳科の授業の中で育成していくことも大切であると考えています。これらの育成を目指して「各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るもの」とされていますので、道徳科の授業の中でも学習の基盤となる資質・能力を育成することを目指す必要があります。

学習の基盤となる資質・能力の一つとして示されている「情報活用能力（情報モラルを含む）」の育成にICTを活用した学習活動を設定することで、効果的な指導が期待できます。

「小学校学習指導要領解説 総則編」の情報活用能力についての説明を読むと、先に示した深い学びとの関連が深いことが分かります。深く思考する

## 5

### ICTの機能と活用パターン

では、ICTをどのように活用すればよいのでしょうか？ ICTを活用するためには、ICTの利用形態と、ICTでできることを知ることが、まず必要です。

ICTに慣れていない先生にとっては、不安があるかもしれません。しかし、さまざまな教科でICTを活用する状況になると、児童・生徒は操作に慣れるため、指示をするだけでよくなります。もしも、先生が困ったときには、児童・生徒に助けを求めることも可能です。ICTが得意な児童・生徒の活躍の場を作ることも授業デザインに組み込むと、無理なくICTが活用できると思います。

#### ● ICTの主な機能

- 1 拡大縮小できる。
- 2 書き込める。
- 3 図形や文字を部品として扱える。
- 4 多色マーカーが利用できる。
- 5 消せる。
- 6 写真を撮れる。
- 7 音や動画を記録できる。
- 8 音を出せる。
- 9 動画を再生できる。
- 10 情報を送り合える。
- 11 情報共有できる。
- 12 共同編集できる。

参考:『無理なくできる学校のICT活用』学事出版



## 6

### ICTの機能と活用パターン

無理なくできるICTの活用事例を場面ごとに示します。まず、協働的な学びの場面を設定してから、ICTを活用する場面を考えることをお勧めします。また、児童・生徒のキーボード入力スキルが低い場合は、ワークシートやノートに書いた文章を写真に撮らせて、クラウド上で共有する方法も良いでしょう。ICT活用は手段ですので、授業の目的を達成することを最優先して、活用することが大切です。

## 1

### 事前読みでの活用

朝の読書の時間や学活、宿題等で事前読みをさせる際に、デジタル教科書の朗読機能を使ったり、範読した音声ファイルを児童・生徒に保存させたりすれば、読むことに困難がある児童・生徒の学習を支援することができます。また、自分で読める児童・生徒には、読み方のお手本を参考にしながら、読み方を練習をさせることで、より理解が深まることを期待できます。

## 2

### 導入の場面での活用

事前読みをさせたときや、範読の後の確認の場面、前から続けて行う授業等の導入の場面などで、スライドにまとめたあらすじをプロジェクトや大型ディスプレイに提示すると、短時間で確認ができます。なお、残しておきたい情報は黒板に書いたり、掲示したりして、デジタルとアナログを効果的に使い分けると良いでしょう。

## 3

### 個々の考えを共有する場面での活用

一人一人の意見を、教育用クラウドサービス上に書かせ、共有範囲を班や学級全体、学年全体等に設定することで、全員参加型の授業が可能となります。

## 7

### 無理せず、できることから

スマートフォンやパソコンが普及しているのは、便利だからです。ICT活用慣れていない先生も、使い始めれば、きっと、その便利さに気づいてもらえると思います。

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、無理せず、できることからICTを活用してみよう。

## 4

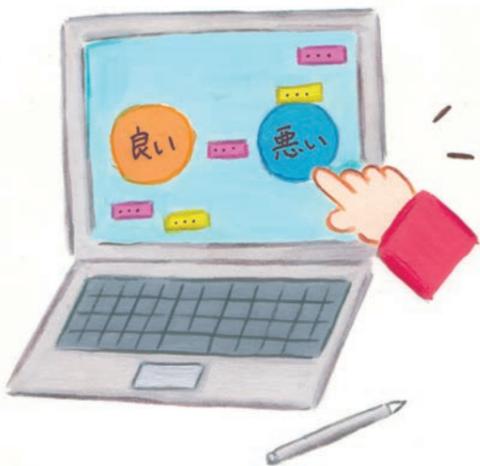
### 多面的・多角的に考えたり、分析したりする場面での活用

思考ツールを背景にした画面を共有し、意見を書き込んだテキストボックスや付箋を配置させるなどの活用ができます。

## 5

### 自分の立場や気持ちを表明させる場面での活用

「賛成、反対」「嬉しい、悲しい」「約束を守る、約束を破る」「行く、行かない」「良い、悪い」などといった対立する立場のどちらを選択するかを記し



## 6

### 振り返りの場面での活用

振り返りの文章をタブレットPCで書かせて提出させ、デジタルデータで振り返り文を蓄積していくと、学年が変わっても、自分自身の成長を確認できるデジタルポートフォリオになります。

また、児童・生徒の振り返りの文章をKHコーダー(<https://kncoder.net/>)からダウンロード可能。Windows版は無料)等で計量テキスト分析をすると、児童・生徒の考えを視覚化して確認することができます。

プロフィール  
はせがわ もとひろ  
**長谷川元洋**

金城学院大学教授、博士(教育学)、専門分野は教育工学。東京書籍「情報社会のモラル&リテラシー」情報モラル監修。東京書籍「新しい道徳」編集委員。



# 多様な考えに触れる きっかけづくりとしてのICT活用



かんべ  
愛媛県西条市立神戸小学校  
情報教育主任教諭  
たけもと ひろき  
竹本 啓貴

## 1 実践の概要

西条市は、「2018日本ICT教育アワード」を受賞するなど、教育の情報化に取り組んできました。

また、本校は、平成二十九年度から三年間、スマートスクール実証校として、Windowsタブレット端末が学校の各階に四十台（計百二十台程度）配備されました。本実践は、ロイノート・スクール（株式会社「ロイ」）を活用しています。

本学級の児童（二年生）二十名は、算数科を中心にタブレット端末を活用してきました。道徳科で使ったのは、本実践が初めてでしたが、子供たちは慣れた様子で、難なく使いこなしていました。本実践で用いた教材は、「おれたものさし」【主題名「正しいことは進んで」（A1） 善悪の判断、自律、自由と責任】です。導入では、年上のお兄さんたちが、良くないことをしていたときどうするかを考えることによって、ねらいとする道徳的価値への方向付けをしました。

## 2 ICTを活用して

展開では、主人公の「ぼく」の気持ちに共感できるように授業を進めました。タブレット端末を使用した場面は、主人公の気持ちに自分の思いを重ね、自分の立場を表明するときです。「あなたが『ぼく』だったら、同じような行動ができるでしょうか。」という問いに対して、「できる」なら「赤」、「できない」なら「青」、「迷う」なら「黄」の背景色のシートを送信することで、自分の立場を表明しました。電子黒板に全体の傾向を映すことで、多様な考えに触れるきっかけづくりとしました。

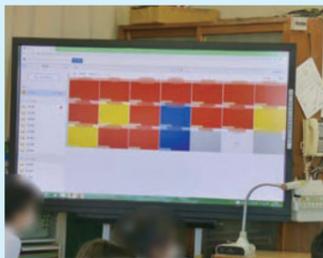
多様な考えの人がいることに気づいたうえで、なぜその立場なのかについて、まず自分自身と対話する時間をつくり、ワークシートに記入しました。その後、それぞれの立場から意見を発表し合うことで、多様な考えの根拠に触れる他者との対話の場をつくりました。



「ICT機器を使うことが目的なのではなく、目的に応じて手段として使うことが大切である。」ということをおさげしながら、研修等で耳にします。しかし、子供たちといっしょに使ってみることに、どのような場面で活用できるのかも分からないと思います。そのため、まずは子供たちといっしょにICT機器を使ってみるということが大切です。今回の実践では、「多様な考えに触れるきっかけづくり」という目的をもってICT機器を使用しましたが、子供たちがこれまでタブレット端末を使用してきた経験の積み重ねによって、この実践をすることができたのだと思います。

まずは楽しみながらICT機器を使ってみる。そして、できることが増えてきたら、使う場面を検討して、より効果的に使えるようにしていくというステップで、ICT機器を取り入れていくことが大切だと思います。

**ポイント1** 道徳科では、相手の思いを根拠や理由を踏まえながら深く知ることによって、ねらいとする道徳的価値を多面的・多角的に捉えることができるようになります。ICT機器を用いて対話のきっかけをつくり、直接の対話を通して、自分自身の考えを再構築していくことがICT機器を用いた授業づくりを実践していくうえで大切です。



**ポイント2** タブレット端末を使用する場合、教科書とワークシートも同時に机の上にあります。そのため、タブレット端末を使わないときは、机の中に入らざることを徹底することが、ICT機器をよりよく使うために求められるスキルです。低学年の子供に限らず、余計なものが机の上にあるとどうしても気になってしまい、触ってしまうことが多くなります。そのため、今は何をやる時間なのかを明確にし、その都度使う道具を机の上に出すよう指示を出すことが、ICT機器を効果的に使用していくうえでのポイントになります。



**ポイント3** タブレット端末の機能で使いたいものがあったとしても、使い方は一朝一夕に身に付くものではありません。日々の授業で少しずつ使ってみることで、教師も子供たちも使い方を学習することができます。ただ、子供たちは小さい頃からあたりまえにICT機器を使用しているので、使いこなすまでにあまり時間はかかりませんでした。むしろ教師のスキルのほうが求められます。まずは授業者が、どのような機能があるのかを知り、自分で試してみることで、授業のイメージをもつことができます。多様な機能から子供たちが使いそうなものを選び、日頃から試みるのが効果的に使用する一つのポイントになります。

**ポイント4** 本実践のように、全体の意見の傾向を電子黒板等に映すと、少数派の子供たちが意見を言いづらくなってしまうことが考えられます。その場合は、少数派の子供たちの意見から聞くことや、教師がその子供たちの気持ちに共感することによって、多様な意見を出しやすい雰囲気づくりをすることができます。どの考えが正しいのかを議論するのではなく、多様な考えがあることに気づき、思いを伝え合うことを大切にしたいです。

- **主題名**：正しいことは進んで
- **教材名**：「おれたものさし」  
（「新訂 新しいどうとく2」東京書籍）
- **内容項目**：A(1) 善悪の判断、自律、自由と責任
- **ねらい**：良いことと悪いことの区別をし、良いと思うことを進んで行おうとする心情や態度を養う。

### 学習活動 主な発問(●) 予想される児童の反応(○)

#### 導入

- (イラストを見せながら) こんなときどうしますか。  
○ 怖いから注意できない。  
○ 先生に相談する。

#### 展開

- お話の登場人物を確認しましょう。
- のぼるがひろしにものさしを持たせているのを見たとき、「ぼく」はどう思ったでしょうか。  
○ 折ったのはひろしではないのに。  
○ ひろしは弱いから言われているんじゃないかな。
- 「ぼく」は胸がどきっとしたとき、どんなことを考えていたでしょうか。(ペア→全体)  
○ これを見逃したら、またつらい思いをする人が増えてしまう。  
○ 「ぼく」が止めないといけない。  
○ 怖いなあ、どうしよう。
- あなたが「ぼく」だったら、同じような行動ができるでしょうか。(中心発問)  
○ (できる)・・・赤  
○ 間違ったことは許せないから。  
○ つらい思いをしてほしくないから。  
○ (できない)・・・青  
○ 怖いから。  
○ 自分がまた嫌な思いをするかもしれないから。  
○ (迷う)・・・黄  
○ 怖いけど、止めないとひろしがかわいそう。  
○ 止めたいけれど、のぼるが強いから止められない。
- 正しい行動をした「ぼく」は、どんな気持ちになったでしょうか。  
○ 注意ができてよかったなあ。  
○ のぼるも分かってくれてよかった。

#### 終末

- 今日の学習で考えたことや思ったことを書きましょう。  
○ いけないことは、いけないとはっきり言えるようになりたい。  
○ その場ではっきりと言えなくても誰かに相談して、解決できるようにしたい。

# 道徳教育の充実のためのICT活用

## 1 実践の概要

本校は全校百十八名、六クラスの小規模学校です。地域の協力・理解があり、子供たちは温かな雰囲気の中で学習できています。

本校では、数年前よりWindowsタブレット五十台、iPad三十台を導入し、情報共有ツールを使った学習や、東京書籍のタブレットドリル等を使った学習を進めてきました。現在、全ての教師が積極的にICTの活用に取り組んでいます。本年度は、GIGAスクール構想で導入されたChromebookの本格稼働の年に当たります。一人一人の端末を学習で効果的に生かすためには、どのような取り組みをしていくのがよいのかを研究の中心として進めています。国語や算数といった教科での研究に加え、「特別の教科 道徳」において深まりのある授業とするには、どの場面でもどのようにICTを活用するとよいか探ってみることにしました。

## 2 ICT活用に向けて

**仮説1** 子供たちが課題意識をもって道徳の授業に積極的に取り組むための手立てとして、授業前にICTを活用した児童アンケートが実施できるのではないかと。

**仮説2** ロイノート・スクールやGoogle ClassroomやJamboardの機能を使えば、情報共有が迅速にでき、議論が深まるのではないかと。

**仮説3** 授業の最後に書いた子供の感想・振り返りの文章をA-テキストマインニングで分析後、子供に返すことで、授業後にさらに深めることができるのではないかと。

**仮説4** 道徳の授業内でICTが活用できることに加え、授業後の通信や事後指導でさらに深めることはできないか（道徳教育の充実）。

## 3 ICT活用の考え方

小学生の発達段階を考えると、低学年、中学年においては、ICTの多機能なものを使うのではなく、シンプルなものの方が好ましいと考えています。

使用場面には、授業の導入段階のイメージ共有や、比較しながら考える場面などが想定できます。文字入力などに時間がかかりすぎると、議論する時間が少なくなり、本来の授業目的が達成できません。高学年においては、すでに手書きと同等の速度で文字入力ができるので、意見交換、感想・振り返りの共有にメリットがあるので、ではないかと感じます。デジタルデータは、事後の情報共有・分析等のデータ処理も容易です。こうしたメリットを生かせたらよいと思います。

道徳の授業時間の充実のためには、教材研究がいちばん大切であると思います。その分析から、ICTの強みを生かした実践をすることで、授業の深まりが増すと思います。さらに、学校全体で道徳教育を充実させるために、効果的にICTを活用していきたいと考えています。



岡山県倉敷市立  
つらしま  
連島北小学校  
校長  
山口 雅弘

### 実践の記録

●教材名：5年「心のレシーブ」、6年「ばかじゃん！」  
（「新訂 新しい道徳」東京書籍）

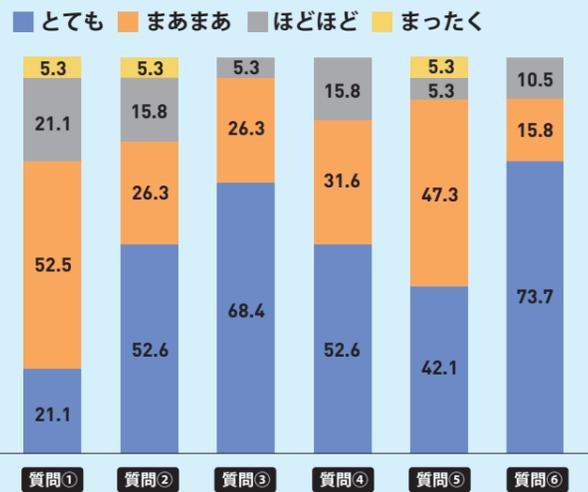
●内容項目：B(10) 友情, 信頼

### ICT活用の流れ

- アンケート機能で授業前アンケートを実施し、自分たちの課題を提示する。
- 授業内で、Jamboardに各自意見を記入する。
- アンケート機能に振り返りや感想を記入する。
- 感想をAIテキストマイニングで分析し、学級通信でまとめる。



### 授業後の児童アンケートの結果



- 質問① 事前アンケートの結果を見て、授業への興味・関心が高くなった。
- 質問② ICTを使わないときと比較し、たくさん意見を言えた。
- 質問③ ICTを使わないときと比較し、友達のことをたくさん聞いた。
- 質問④ ICTを使わないときと比較し、友達のことを自分の考えが深まった。
- 質問⑤ ICTを使わないときと比較し、深く考えることができた。
- 質問⑥ ICTを使わないときと比較し、楽しく授業に参加できた。

**ポイント1** 授業の導入において、課題を意識させてから授業を行うことで、子供たちは**より自分ごととして考えながら参加できた**と感じます。このことは**仮説1**の考えが生かされたと思います。

**ポイント2** ふだんの道徳の授業では、挙手して積極的に発表する子供も多数いますが、全員の意見を迅速に知ることはできません。ICTを活用し、意見を書き込む場面を設けたことで全員がしっかり考え、意見を出せたことはよかったと思います。**仮説2**の情報共有の迅速化はできました。しかし、議論の深まりについては、補助発問など、どのような問い返しをするかが重要と考えます。教材内の記述が不十分な点を深掘りした発問をすることが大切ですが、全員の考えが見えるからこそ、**書き込みに対する効果的な問い返し**が、授業をアクティブなものにすると思います。

**ポイント3** **仮説3**のAIテキストマイニングでは、子供が感じたことが可視化されるので、授業者にとっても、子供の思考がどの程度の深まりであったかを感じ取ることができます。授業が内容項目と合致していたかも分かります。この点は、教師側にとっては**授業改善のツール**としても使えるのではないかと思います。本実践の授業後、授業者と私で、子供の書いた文章を見ながら、改めて問い返しを考える時間をとりました。授業者の道徳の授業の在り方の意識を高めるきっかけとなったと感じます。

**ポイント4** 5年生の授業では、Jamboardに子供が記入したものをもとに、教師主導で問いを深める授業を展開しました。多様な意見を積極的に交わすには、**書き込みを見ながら、適切かつ迅速に問い返し**をすることが課題だと感じます。

6年生の授業では、Jamboardに各自の意見を記入した後、互いの意見を読み合いました。その後、意見を聞きたい人を自分で見つけ、次々と聞いていくグループワークを行いました。その際、授業者は、似た意見どうしだけでなく、自分と違う人の意見も聞くよう指示を出して活動しました。ここでは積極的に多くの友達と意見を交わす姿がありましたが、**グループワークの時間とその後の全体で考えを深める時間のバランスを**考えておく必要を感じました。**仮説4**については、今後検証予定です。

**ポイント5** ICTの活用は、**従来の対話のある議論**と併せて**効果的な展開の工夫**が必要です。また、**黒板の活用も重要**と考えます。授業で、子供の新たな気づきや考えたことを共有し、学びを深められる視点が重要と考えます。

# インタビュー映像を利用した 授業実践



神奈川県横浜市立永田中学校  
教諭  
ひがし かつや  
**東 克也**

## 1 実践の概要

本実践は中学校二年生、内容項目A(4)希望と  
勇氣、克己と強い意志についての授業です。教材  
は、「左手でつかんだ音楽」を使用しました。

実践を行ったクラスでは、自分自身の目標に向  
けて頑張ろうとする姿勢を見せている生徒もたく  
さんいます。一方で、目標に到達できなかったと  
きに、大きく落ち込んでしまったり、少しでも実  
現が難しいと感じるとすぐ諦めてしまったりする  
ような姿も見られます。

それは、自分自身の努力や、諦めずに取り組ん  
だことによる成功体験が少ないことも影響してい  
るように思われます。

そこで、困難に直面しながらも、その困難を乗  
り越えた主人公の館野泉さんの姿を通して、諦め  
ず努力し続けようとする心情を育むことをねらい  
としました。

また、中心発問(発問3)の後に、「館野さん

はなぜ困難を乗り越えることができたのだろう。」  
(発問4)という発問を設定しました。これは、中  
心発問で考えた内容をより深め、ねらいに迫って  
いくことを意図しています。

また、教材を読む前や終末の場面で、館野さんの  
演奏した楽曲を聴くことで、生徒が興味をもって授  
業に取り組むことができるように工夫しています。

## 2 ICTを活用して

「左手でつかんだ音楽」は、ピアニスト館野泉さん  
にまつわる文章です。実在の人物についての内容で  
あるため、館野さんの苦悩やそれを乗り越えること  
について考えやすい教材であると思います。

しかし一方で、実在の人物を扱う教材の場合、そ  
の人物のことを知らない生徒たちにとっては、臨場  
感がわかず、フィクションの世界の話と変わらない  
捉え方になってしまうことも考えられます。今回の  
館野さんについても同様のことが懸念されました。

東京書籍の教科書には、教材にまつわるさまざま  
な映像資料が用意されています。「左手でつかんだ  
音楽」についても、館野さんのインタビュー映像  
(本ページ左下画像)が用意されていました。

そこで、授業の中でこのインタビュー映像を活用  
することで、生徒は臨場感をもって考えることがで  
きるようになると思いました。実際には、iPadで二  
次元コードを読み取り、テレビに映してクラスで視  
聴する形をとりました。

本実践では、先ほど述  
べた発問4の意図をより  
実現しやすくするため  
に、中心発問の後、館野  
さんのインタビュー映像  
を視聴しました。



館野泉さんのインタビュー映像

## ポイント1 導入を工夫する。

導入部分では、今回の内容項目について自分ごととし  
て捉える契機としました。自分が諦めてしまったことを  
素直に表現している生徒も多く、そこから、本時の学習  
テーマにつなげることができました。

また、教材を読む前に、館野さんの演奏した楽曲の  
CDを視聴しました。楽曲は NHK 大河ドラマ「平清盛」  
のオープニングテーマです。館野さんが演奏しているピア  
ノの部分に着目させ、視聴後、「実は館野さんは左手の  
みで演奏しているピアニストです。」という紹介を行いま  
した。「えっ、ほんとに?」「全然分からなかった!」と  
いう声も聞かれました。こうした工夫をすることで、生  
徒たちが館野さんに興味をもち、教材に触れることがで  
きたように思います。

## ポイント2 順を追ってねらいに迫る。

道徳的価値をつかみ、ねらいに迫っていくために、発  
問2～発問4を設定しました。発問2は道徳的価値に迫  
るために館野さんの葛藤に着目させる発問です。発問3  
は館野さんが価値を実現している箇所に着目します。発  
問4は道徳的価値を一般化する発問です。発問3で考え  
た内容をより深め、ねらいに迫っていくことを意図してい  
ます。

そして、発問3の後には館野さんのインタビュー映像  
を視聴しました。「この人なんだ!」という声も聞かれ、  
生徒たちは真剣にインタビュー映像を見たり、メモを取  
りながら聞いたりする生徒も多かったです。

そして、発問4では、「左手だけでも大好きなピアノを  
弾けるという希望をもった。」「自分を待っていてる人  
がいて、またみんなを喜ばせることができると思ったか  
ら。」というように、ねらいに迫る内容をワークシートに  
記入している生徒もいました。



- **主題名**：あきらめない気持ちで
- **教材名**：「左手でつかんだ音楽」  
(「新訂 新しい道徳 2」東京書籍)
- **内容項目**：A(4) 希望と勇氣、克己と強い意志
- **ねらい**：主人公の気持ちの変容を考慮を通して、希望と勇氣をもって夢や理想を実現していこうとする心情を育む。

### 学習活動 主な発問(●) 予想される生徒の反応(○)

#### 導入

- 1 今までの自分を振り返る。
- 自分が取り組むべきことを諦めてしまったことはあるか。(発問1)

【今日の学習のテーマ】 困難や失敗を乗り越えていくためには、どのような考えが必要なのだろう。

- 2 教材を読んで次のことについて話し合う。
- いっこうに回復する兆しがなかったとき、館野さんはどのように感じていただろう。(発問2)
  - やはりだめなのだろうか。
  - 諦めたほうがいいのか。
- ヤンネさんから送られた「左手のための三つの即興曲」を弾いた館野さんはどのような気持ちになっただろう。(発問3：中心発問)
  - 感謝。
  - 新しい世界に出会えた喜び。

- 3 館野さんのインタビュー映像を見る。
- 館野さんはなぜ困難を乗り越えることができたの  
だろう。(発問4)
  - 諦めずに努力したから。
  - 挑戦し続けたから。
  - だいに取り組んできたから。

【教材を通して学んだこと】 困難なことにも諦めず、努力し挑戦し続けようとするのが大切だ。

- 4 今の自分を振り返り、次のことについて話し  
合う。
- 教材を通して学んだことと照らして、今の自分は  
どうだろう。(発問5)

- 5 館野さんの演奏を聴く。

#### 展開

#### 終末

# 生徒の思考を高める手段としてのICT活用



長崎県佐世保市立清水中学校  
校長  
おがた しげる  
**緒方 茂**

## 1 道徳授業におけるICT活用

情報化社会を迎え、情報の収集が簡単にできるようになりました。今はさらにその上をいく時代となっているようです。生徒の道徳性を高めるには、道徳科の時間において、しっかりと思考する過程が必要不可欠と考えます。

生徒の思考を高めるのに必要な情報を、授業のねらいや生徒の思考に沿って、タイミングよく量や内容を調節しながら提供できるのは、ICT活用の長所です。長い教材も、生徒の抵抗が軽減できるように調整できます。私は、プレゼンテーションソフトを用い、教室等のモニターでいっしょに画面を見ながら授業を進めています。もちろん、画面から離れて、教材文を読んだり、絵本を読み聞かせたりして、生徒との対話を楽しむこともあります。

ここでは、「新訂新しい道徳1」に掲載されている教材を用いた実践を紹介します。実践のポイ

## 2 一人一台端末の時代を迎えて

一人一台端末の最大の特徴は、個別最適化された学びと、学習内容の共有・交流です。道徳授業になじむかどうか、疑問に思うこともありませんが、板書よりはるかに早く意見や感想の交流ができますし、教師が見つけられないグループ

一人一台端末の最大の特徴は、個別最適化された学びと、学習内容の共有・交流です。道徳授業になじむかどうか、疑問に思うこともありませんが、板書よりはるかに早く意見や感想の交流ができますし、教師が見つけられないグループ

## 3 終わりに

生徒の思考を高めるためには、生徒が思わず考えたいような「発問」が必要なのは言うまでもありません。教材に関する内容を段階的に提示すると、数多くの「問い」が生まれてきます。その「問い」を「発問」として、生徒にぶつけてみることもありました。道徳科の授業は、授業者のものの方や考え方、児童生徒への思いが反映される授業の一つでもあります。ICTの活用と合わせ、生徒の思考が高まるような授業づくりがなされることを願っています。

生徒の思考を高めるためには、生徒が思わず考えたいような「発問」が必要なのは言うまでもありません。教材に関する内容を段階的に提示すると、数多くの「問い」が生まれてきます。その「問い」を「発問」として、生徒にぶつけてみることもありました。道徳科の授業は、授業者のものの方や考え方、児童生徒への思いが反映される授業の一つでもあります。ICTの活用と合わせ、生徒の思考が高まるような授業づくりがなされることを願っています。

## ポイント1 挿絵等を有効に活用する。

教科書には、台所での和威さんと喜美世さんの様子、介護サービスにおける和威さんと中村さんの様子の挿絵があります。教材に登場する人物がイメージできます。前者を①で、後者を③でモニター画面に提示しました。生徒の間では、いろいろな発想の発言が飛び交いました。二人のやりとりを吹き出しで示すと、場面のイメージができたようです。④では、空白の吹き出しを入れて、書き込ませてから役割演技をさせました。

## ポイント2 教材はコンパクトに提示する。

教科書の教材は4ページほどですが、②では、和威さんと喜美世さんのこれまでの経過を、箇条書きにして提示しました。そうすることで、生徒にとって必要な情報をタイミングよく提示できます。

例：和威さんと喜美世さん  
「仲良しの夫婦。」「喜美世さんが意識を失い、手術を受ける。」「退院したものの、ほぼ寝たきりの生活。」「和威さんが介護。」「回復し、自分の力で歩けるようになった。」

挿絵と合わせるとなお分かりやすくなります。ポイント①と同様、プレゼンテーションソフトを使いました。③では、教材の後半を範読した後に挿絵を提示することで、読解力に課題のある生徒も参加することができます。

## ポイント3 関連する教材を追加する。

この授業を実施するにあたって、NHK「道徳ドキュメント」はもとより関連する語句をネット検索しました。関連する教材を活用して本教材を補うこともありますし、本教材と差し替えることもあります。本実践では、ACジャパンの広告「思いやり算」を終末⑥で採用しました。

ICTを活用した場合、授業が終わると生徒の手元に教材等が残りません。家庭等での共有を考えると、生徒が振り返ることができるようにしておきたいものです。教科書教材の場合は、終末段階で「今日の授業は、教科書 88～91 頁にある『思いやりの日々』でした。」と紹介しておきました。自作教材等の場合は、印刷物として用意し、タイミングをみて配付するようにしています。

- **主題名**：本当の思いやりとは
- **教材名**：「思いやりの日々」  
(「新訂 新しい道徳1」東京書籍)
- **内容項目**：B(6) 思いやり、感謝
- **ねらい**：障がいをもつ人と関わった主人公の気持ちを考えるを通して、本当の思いやりとは何かを理解し、温かい人間愛を深め、誰に対しても思いやりの心をもってともに生きようとする心情を育てる。

### 学習活動 主な発問(●) 指導上の留意点等(●)

導入

- 1 挿絵(89頁)を提示し、教材に意識をもたせる。  
● 気づいたことはありませんか。

- 2 教材前半(89頁12行)までの内容を示す。その後、下の挿絵を提示する。  
● 喜美世さんが黙ってしまったのはなぜでしょうか。



- 3 「和威さんは、なぜ後悔したのでしょうか。」と問いかけながら、教材後半(90頁5行～91頁10行)を読み聞かせる。  
● 道子さんは、どんな言葉を和威さんに返したでしょうか。  
● 挿絵(90頁)を提示する。

- 4 挿絵の「私も、手伝おうかしら。」から後の会話の続きを考えさせる。  
● 和威さんと喜美世さんは、どのような会話を続けるのでしょうか。

- 5 和威さんが考えるようになった思いやりとは何でしょうか。  
● 教材を見せずに考えさせる。

- 6 ACジャパンの広告「思いやり算」を視聴させて、感想の時間とする。

展開

終末